



# 京機短信

No.149 2010.12.20

京都大学機械系工学会(京機會) tel.& Fax. 075-753-5183

E-Mail: [jimukyoku@keikikai.jp](mailto:jimukyoku@keikikai.jp)

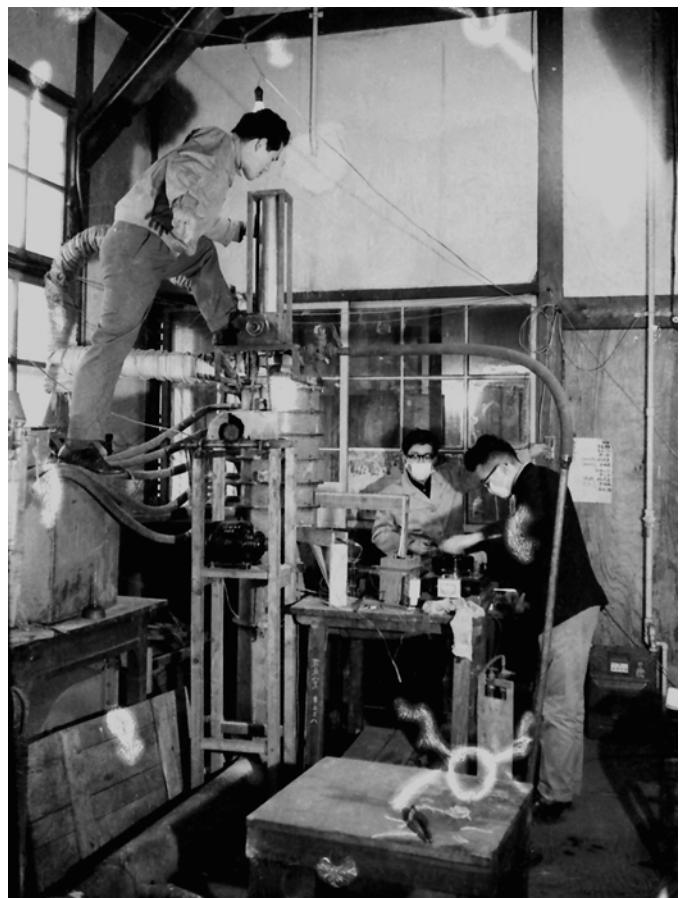
URL: <http://www.keikikai.jp> 編修責任者 久保愛三

1961年に撮った写真です。

山本 明(昭和36年卒)



機械系本館



実験室

実験室のフィルムは、酢酸のせいでしょうか、ボロボロです。

実験室の左の学生は、故国友孟さんですよ。

過去の善き日を感じてくれる人が、一人でもおられればと思いつつ。

【連載】

## 5つの向かい風を超えて (その2)

間瀬俊明\* (昭42年卒 ディジタルプロセス(株))

前号でお話しした5つの変化(図5)が、どのように起きたか、なぜ向かい風であったかについて順に考えてみたいと思います。

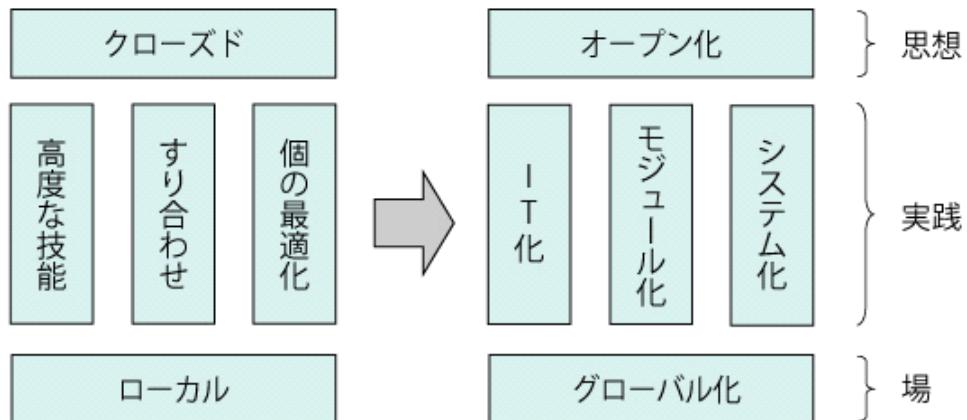


図5 クローズドからオープンに

### 'クローズド'から'オープン'思想に

「桐一葉落ちて天下の秋を知る」は、豊臣家の5奉行の一人、片桐勝元が豊臣家の滅亡を予感して詠んだ句と言われています。些細な出来事から大きな変化の兆しを知るという意味で使われます。また龍安寺の庭は、幅25メートル、奥行き10メートルの堀で囲まれた空間に15個の石を配置しただけの簡素な石庭です。この小さな空間に巨大な世界や宇宙を投影することで見る人を魅了し続けています。伝統的な日本の庭は小さな池や築山、そして石組みで海や山河といった広大な自然を表します。俳句も敢えて17文字の枠を作り、そのなかで研ぎ澄まされた描写力を競います。

こういった精神構造を詳細に分析した、韓国の作家で大学教授の李御寧の

著わした「縮み思考の日本人」という本がありますが、非常に優れた日本人論となっています。このような、小さなものや敢えて枠をはめたなかに大きな意味や価値を創り出そうとする精神は、ものづくりにも遺憾なく発揮され、ウォークマン、軽自動車といった日本独自の製品が生れました。しかしグローバル化時代に



入ると、それと大変相性のよいオープン思想を背景にした製品が日本の強みを奪っていました。日本人は個の中に全体を作り込むのが得意ですが、欧米人は全体の中に個を活かす作り方が自然にできるようです。ヨーロッパの民家の窓辺の花は、個としてとても美しく飾られていますが、同時に街全体の景観を美しいものにしています。日本人がそれを苦手とすることは、雑然とした東京の景観をみればすぐに分かります。囲い込まれた中での美意識は鋭いものの、不揃いなビルの稜線や、おびただしい電柱や電線で埋まる空を見上げたとき、その見苦しさを平気で放置できる感性は理解に苦しみます。私たちにとってオープン思想はよほど意識しないとうまく取り込めないと感じます。



この、思想としてのオープンは決して単純ではありません。特にグローバル市場に於いては、例えば、肝となる技術は隠蔽し、自社製品に都合よく体系化した周辺をオープンにすることでデファクトを狙うといった大胆で緻密な戦略が重要です。標準や知的財産の扱い方、そして何よりもどんなオープン思想で囲い込むか、明確なシナリオが必要です。こういった戦略的動きは職人国家といわれる日本には正直向いていないと実感します。分かっていても体が動かない、今やオープン化は日本のアキレス腱になっています。

### 'ローカル'から'グローバル'な場へ

ながく日本は輸出立国として外貨を稼ぎ成長してきました。その間、実際のものづくりは日本という国のローカル性を最大限に利用してきました。古く高度成長期は国内産業が育つまで貿易の自由化を制限しました。そして競争力が備わった後も、国内生産というローカルな強みを生かし、圧倒してきました。当時は多

国籍企業も少なく、国をバックにしたローカル企業間の市場競争であったのです。

その後、賃金や物価の上昇により徐々に価格競争力が弱まり、やむなく工場を市場の近くか、コストの低い国に移転せざるをえなくなりました。それでも移転先では日本の生産方式を徹底し、あたかも海外における日本の工場として、即ち海外におけるローカルな強みで競争優位を獲得してきました。

しかし1990年代以降のグローバル化はそれ以前の、先進資本主義国を対象としたグローバル化とは質的に全く異なるものでした。それは、旧社会主義国と発展途上国が資本主義経済の循環に組み込まれる、或いは途上国自らがグローバル化の流れを利用しようとするプロセスでした。そして人や物や金がそれまでより遙かに自由に国境を越えて動くようになったのです。特にITの発達がそのスピードを加速し、結果としてコスト削減、金融の国際化、途上国の発展をもたらしました。もともと人の流動性が低く、コミュニケーション力や英語力、更には金融資本力も弱い日本にとって、新しいグローバル化はまさに逆風であったのです。そして否応なく日本というローカル土俵から、無限に広いグローバル土俵に移らざるをえませんでした。

長く島国に安住し、特段の広い視野を持たなくても自然に備わっていた競争力、それが共通のグローバル土俵での戦いに移ったことで一変しました。10億人の先進国マーケットから69億人のグローバルマーケットに移り、高品質・高性能が売りの日本製品は市場にマッチせず、逆にガラパゴス製品といわれるようになってしまいました。私たちは時代の急激な変化に十分に対応できなかったのです。

いずれにしてもここまで努力して高めた品質や機能・性能を、単に落として戦うことは得策ではなく、仮にそうしても勝てる見込みは殆どありません。新たなグローバル時代の戦略を生み出せないなか、依然として日本は漂流を続けているように思います。

(つづく)

## — 京機短信への寄稿、宜しくお願ひ申し上げます —

### 【要領】

宛先は京機会の e-mail: [jimukyoku@keikikai.jp](mailto:jimukyoku@keikikai.jp) です。

原稿は、割付を考えることなく、適当に書いてください。MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。  
宜しくお願ひ致します。

# シルクロードを旅して

(その4)

1966年 機械科修士卒 平 忠明

## 「各処古城・仏教遺跡→大乗仏教と小乗仏教→敦煌遺跡」のつづき

トルファン経由で飛行機で最後に訪問した中国から西域に至る“出口”、北方騎馬民族：匈奴にとっては“入口”に当たる敦煌の有名な「莫高窟」は、上記に相前後する4世紀から14世紀頃までに、現在我々が目にすることが出来る“窟”が完成したが、ほとんどが大乗仏教（お釈迦様に祈りさされば、誰でも仏になります）に関するもので、鳴砂山の東端の砂漠地帯に位置し、中央の最も高い第96窟が、1900年道志“王”によって偶然に発見されるまで盗掘を免れたことは、良く知られたことである。

井上靖の「敦煌」でも有名な第17窟は、大量の経典が収められていたことで知られているが、その経典の80%以上が海外流出しており、現在、米国、イギ

敦煌： 人口：13万、タリム盆地、ゴビ、ツァイダム盆地に祁連山脈に囲まれたシルクロードのオアシス都市。 紀元前には月氏や匈奴に支配され、前漢代には西域への軍事拠点として、西涼、北魏には河西四郡のひとつ「沙州」として栄えました。



鳴砂山と月牙泉： 敦煌市内から南に6km。東西約40km、南北20km続く砂丘。 鳴沙山とは、ある大将が軍隊を率いて出征の途中、強風が吹き黄砂が天を覆い、全軍が埋もれてしまった後に山中から鼓笛の音がするようになったことから名付けられたと言われています。 鳴沙山の北麓にある三日月（月牙）の形をした泉が月牙泉です。

リス、ロシア、日本等に保管されていると。(日本の場合は1902年以降3回にわたる大谷瑞光探検隊の調査・研究によるもの)

現地ガイドの日本語流暢な中国人は「そのまま残されていれば二束三文で売り飛ばされ、逸散していた可能性が高かった」との個人的見解を披露。

### 「カシュガルとカラクリ湖」

今回の4駆の旅の終点、最も西の都市:カシュガルは、カラコルムハイウェイをさらに西へ300km走ればカザフスタン共和国、南へ行けば有名なカイバル峠を経てパキスタンを経由してインドへ至る。

カラクリ湖はその途中にある湖で標高3,800m、湖面に映る周囲を7,000m級の雪に覆われた絶景で、今回の旅行中では最高のパノラマが展開されていた。さらに、カラクリ湖周囲では、ヤクの群れを眺めながら、乗馬を楽しむことができた。その後、さらに西のスバシ峠で折り返したが、其処は4,200mの高地である。現地のウイグル人の可愛い3人の少女を写真を取って立ち上がった瞬間に、激しい立ちくらみに襲われたが、典型的な高山病の一つである。昼食は“ヤク”的肉入り麺であったが、その肉は羊より硬く山羊の肉に近い。



© SAJU TRAVEL CO., LTD.

### カシュガル：46万・異国情緒たっぷり！

ウイグル族が人口の80%を占める民族色豊かな町。現在でもカラコルムハイウェイでパキスタン北部と新藏公路で西チベットと結ぶ交通の要衝である地位は変わらない。古くからシルクロードの貿易地として、中央アジアと中国を結ぶ要衝として発展してきた。漢代には西域三十六国のひとつインド・ヨーロッパ語族系の白色人種が住む疏勒国(スルガ)の国都として栄え、唐代に安西都護府の支配化に入り、当時この地を訪れた玄奘の記録では仏教が盛んであったと記されている。9世紀には天山山脈北方よりウイグル族が侵入して混血しこで、たとこの地の言語はトルコ語化する。10世紀にはパミール高原を越えてカラハン朝の勢力が及び、イスラム教化が進む。



© SAJU TRAVEL CO., LTD.

カラクリ湖とムスターク・アタ： カシュガルから南西に約200km、標高約3,600mのところに位置する湖。近くの山の氷河が融けて出来た湖で、走ったりするとすぐ息苦しくなり、高山病には注意が必要です。近くにはカザフ族やキルギス族など多くの民族が住んでいて、湖畔にあるパオで食事を取ることや馬に乗ることも出来ます。9月23日(木) パミール高原のカラクリ湖へ(210Km)。快晴の日にはコングール峰(7,719m)とムスターク・アタ峰(7,546m)が湖に綺麗に移る姿も見ることが出来ます

## 「万里の長城と玉門関」

今回、北京に入る最終日に訪問した“玉門関”は最も印象深いものであった。井上靖の小説以外にも、中国に関する歴史小説には必ずといっていいほどに登場する玉門関は、敦煌一帯が漢民族に支配下に入った以降の軍事拠点で、この関所以西が漢民族の支配が及ばない「西域」と呼ばれた。

その時期の前漢の第7代武帝は、北部の匈奴の侵略を防ぐため、玉門関を起点として東方に総延長約6,000kmの万里の長城（漢の長城とも言われる）を築いた。この長城は高さ・幅3mの土壁で、馬・羊の侵入を防止し、遊牧民の移入・定着を阻止するのが目的で、高さ・幅ともに明時代に完成した万里の長城とは構造がまったく異なるものである。そのため、軍事的な防御としては、数百m間隔で“烽火台”が設置され、敦煌に2万人以上の兵士を常駐させていた。今は砂漠の中の“玉門関”近くに兵士の駐屯、武器・穀物倉を兼ねた大きな河倉城があり、日本映画「敦煌」で使用した撮影用セットの「敦煌故城」もまた、その近くにそのまま残されている。



玉門關から東15キロにある漢代の食糧倉庫

秦の始皇帝から始まって明時代になって完成された万里の長城は、上記の漢の長城よりも内側に、言ってみれば防御ラインを下げた位置に、全長2,700kmにわたって造られたが、この長城は衛星から認識可能な唯一の地球上の構造物としても有名である。

(つづく)



# SMILEからのご報告

担当 河本正太



## ○先輩と学生との交流会 ~Design your life~

去る 11/27(土)、時計台 2F国際交流ホールにて、本年も交流会を開催致しました。

お越し頂いた企業は官公庁含む 95 社、計 208 名にも上り、学生参加者も非常に多く、御陰様で大盛況でありました。会場には活気と熱気が満ち、あつという間に時間が過ぎていきました。運営の傍ら、私自身も現役生として先輩と交流し、興味がある企業の実情を直接聞くことで、とても有意義で、「楽しい」会になりました。



本年度は総会とは別日程の開催であり、去年の要望を反映した形で開始時間も遅らせつつ、去年よりも開催時間を延ばすことが出来たことで、より時間的自由度の高い運営を行えました。

11/25(木)に行われた交流会事前説明会では、昨年を遥かに上回る数の学生が来場し、学生の将来に対する高い意識と昨今の情勢からの危機感が増大しているように感じました。

また、学生事後アンケート結果からも、学生の満足度は非常に高く(約 99%)、本会の重要性を再認識しつつ、同時に個人的な達成感とうれしさを感じました。



企業事後アンケートからは、時折厳しいご意見も頂戴致しました。来年に向けてより本会が成長できますよう、優先的にフィードバックする所存であります。

本会の実現への本格始動から 3 ヶ月もの間、多大なるご協力を賜った京機会の皆様、先生方、そして先輩方にはこの場をお借りしてお礼させて頂きたく思います。

## 各支部 新年会のご案内

関西 : <http://keikikai.jp/shibu/kansai/gyouji.html>

関東 : <http://keikikai.jp/shibu/kantou/gyouji.html>

中国四国支部 : [http://keikikai.jp/shibu/cyugoku\\_sikoku/gyouji.html](http://keikikai.jp/shibu/cyugoku_sikoku/gyouji.html)

### ----関西----

関西支部総会ならびに支部恒例行事の平成23年新年会を下記のとおり開催いたします。 旧交を暖め、産学交流・異業種交流と互いの激励により大いに盛り上げをはかり、元気な新年のスタートといたしたく存じますので、ふるってご参加下さい。 WEB受付 <http://keikikai.jp/shibu/kansai/gyouji.html>

平成23年度関西支部総会・新年会のお知らせ

◆開催日：平成23年1月15日（土）

◆場 所：ホテルグランヴィア大阪 <http://www.granvia-osaka.jp/guide/map.html>

◆開始時刻： 総会 17:00 (20F 鶴寿の間)

新年会 17:45 (20F 凤凰の間)

◆参加費用：無料（平成22年4月新入社員の会員）

3,000円（学生・大学院生）

5,000円（平成13年以降学部卒業の会員）

10,000円（平成12年以前学部卒業の会員）

◆昨年度に続き、平成23年度総会は第二世紀記念事業会主催のリカレント講演会との共催とします。

日時：平成23年1月15日（土） 15:00～17:00

場所：ホテルグランヴィア大阪 (20F 鶴寿の間) 参加費用：無料

テーマ：自律型エアロロボットの開発とその防災活動への応用

講師：中西 弘明先生（京都大学大学院 機械物理工学専攻 講師）

◆お申込み：京機会HPよりお申込みください。

<http://keikikai.jp/cgi-bin/index.cgi?D219>

#平成22年度から総会・新年会の往復葉書による案内は廃止しております。

◆事務局：三菱重工業(株) 神戸造船所 高橋 健司

### ---関東---

京機会関東支部第11回総会・新年会のご案内

関東支部事務局： インターナショナルコーティングサービス(株) 増本 雄治

寒さに向かいます折、会員の皆様方におかれましてはご健勝にてお過しのこととお慶び申し上げます。 さて、関東支部第11回総会ならびに新年会を下記要領で開催いたします。 旧交を温め、産学交流・異業種交流を深めるため、皆様お誘い合せの上多数のご参加をお願いいたします。 他支部会員のご参加も歓迎いたします。

なお、服装はカジュアルなもので結構です。 当日はリカレント教育講座も開催いたします。 なお、関東支部会員のメール登録者への支部総会案内状は、昨年度より廃止し、メール案内のみとさせていただいておりますので、ご確認の程よろしくお願い申し上げます。

◆日 時：平成22年1月22日(土) 16時00分～19時30分 受付15時45分から

◆場 所：日立金属 和檜館 大会議室

[http://www.shunko.jp/fukuri/link\\_sisetu/wakyokan/wakyo\\_index.htm](http://www.shunko.jp/fukuri/link_sisetu/wakyokan/wakyo_index.htm)

【MAP】[http://www.shunko.jp/fukuri/link\\_sisetu/wakyokan/wakyo\\_map.htm](http://www.shunko.jp/fukuri/link_sisetu/wakyokan/wakyo_map.htm)

〒108-0074 東京都港区高輪4-10-56 TEL 03-3443-1717

JR品川駅下車 高輪口から徒歩10分

## I. 第11回総会(16時00分～17時30分)

1. 挨拶 支部長

2. 支部活動報告 事務局

3. 講演

(1)「人間の友達の機械としての自動車と日本の自動車技術・産業」

両角岳彦氏・久保愛三氏

## II. 懇親会(17時30分～19時30分)

1. 乾杯 2. ご来賓からのメッセージ 3. 中締め

◆懇親会費：

8,000円(1993年以前に学部卒業の方)

5,000円(1994年以降に学部卒業の方)(当日会場でお支払い下さい)

◆参加申込 京機会HPでお願い致します。

<http://www.keikikai.jp/shibu/kantou/gyouji.html>

メールをご利用できない場合は、「関東支部総会」「支部新年会」「リカレント講演会」の出欠をお書き頂き、お名前、学部卒業年次、連絡先、御所属を御記入の上、FAXにて京機会事務局075-753-5183にご送信下さい。

◆〆切 平成23年1月14日(金)

◆お問い合わせ先：(京機会)事務局 段 智子

E-mail [jimukyoku@keikikai.jp](mailto:jimukyoku@keikikai.jp) TEL 075-753-5183

## 【総会同日開催】

第20回リカレント教育講座 第二世紀記念事業会・関東支部共催

日 時：平成22年1月22日(土) 14時00分～15時45分

場 所：日立金属 和檜館 大会議室(関東支部総会と同会場) 参加費：無料

テーマ：急速に進化するディーゼルエンジン技術

講 師：石山拓二氏 (エネルギー変換科学専攻教授)

◆参加申込(上記京機会HPの総会申込フォームにて併せてお申し込み下さい)

(注) HP受付上の「参加者名簿」にはリカレント出席名簿には掲載されません旨、ご了承下さい。なお、事務局では申込登録は確認させていただいております。

◆お問い合わせ先： 同上

### ---中国四国支部---

拝啓 日毎に寒さが加わる季節となってまいりましたが、皆様にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。京機会中国・四国支部では、年度初めの恒例行事として「見学会」及び「支部総会」、支部活動活性化の一環として「異業種交流会」を開催しています。

本年度は三菱重工業（株）機械事業部の幹事で、船と飛行機をテーマに、下記内容にて実施させていただきます。多数の方にご参加いただけますようよろしくお願ひいたします。他支部の方のご参加も歓迎いたします。 敬具

1. 開催日時 2011年2月5日（土） 12:00～19:30

2. 見学会 見学場所：呉市海軍歴史科学館（大和ミュージアム）

<http://www.yamato-museum.com/>

12:00 JR呉駅改札口集合（各自食事は済まして集合とする）

12:15 大和ミュージアム着（JR呉駅より徒歩5分）

12:15～14:00 見学（博物館のガイド先導により館内見学）

14:00 大和ミュージアム正面に集合

14:00～15:00 貸切バス移動（呉→広島ダイヤモンドホテル）

なお、見学会のみご参加の方は、館内見学終了後、そのまま現地で解散と致します。

3. 支部総会＆異業種交流会

場所：広島ダイヤモンドホテル 〒733-0036 広島市西区観音新町2-4-6

電話 082-292-3161 <http://www.h-diamond-hotel.com/>

(1) 支部運営会議（役員の方のみ） 15:00～15:30

(2) 支部総会 15:30～16:00

(3) 異業種交流会 16:00～17:30

講演①超音波を用いた機能・健全性の評価（京都大学 教授 琵琶志郎）

講演②民間航空機における雷保護技術（三菱重工 技師長 神納祐一郎）

4. 懇親会 17:30～19:30

場所は、支部総会と同じです。

懇親会後は、JR広島駅まで貸切バスを手配いたします。

JR広島駅到着予想時刻は、20:10前後です。

5. 参加費用

(1) 見学会 400円

(2) 支部総会＆異業種交流会 無料

(3) 懇親会 7500円

6. 申し込み方法 京機会ホームページより、お申し込みください。

[http://keikikai.jp/shibu/cyugoku\\_sikoku/gyouji.html](http://keikikai.jp/shibu/cyugoku_sikoku/gyouji.html)

参加される項目（見学会、支部総会＆異業種交流会、懇親会）にチェックをお願いいたします。

<ご参考情報>

★JR広島からJR呉までのアクセス方法

JR広島→JR呉

10:28発-11:00着（快速安芸路ライナー）

10:39発-11:25着（普通）

10:58発-11:30着（快速安芸路ライナー）

JR時刻表（広島→呉）

[http://ekikara.jp/newdata/line/2701221/up1\\_2\\_sat.htm](http://ekikara.jp/newdata/line/2701221/up1_2_sat.htm)

★お問い合わせ（京機会中国四国支部 事務局長）

平井悦郎 三菱重工業（株）機械・鉄構事業本部 機械事業部

## 野次馬話 第13話 「・・・して見たいと思います」

S43卒 遠藤照男

よく耳にする、TVでタレントやタレントもどきのアナウンサーが、何かのリポートを開始するときなどに発する決め台詞で、これから始めることが確定しているのに（放送するのだから当然決っている。）、「・・・してみようかな」の如き表現をすることがいつの間にか定着してしまった。

何故「・・・致します。」と厳然として言ってくれないのか、歯痒くて仕方ない。歯痒さの原因を勝手に推測すると、控えめなことを演出するための婉曲な表現として用いている、ということなのだろう。こう考えると、「・・・して見たいと思います」との表現が使われ始めたのは、自信がないけれども同意を得たいときに「？」マーク付きの尻上りの発音で婉曲な表現をすることとが始まった時期と近いような気がする。ズバリ表明してくれるのは自信喪失の時代の副産物なのだろう。

## 獅子の会 東京地区第一回総会

昭和44年卒の集い「獅子の会」の東京地区第一回総会を11月6日に新日鐵代々木俱楽部にて行いました。東京地区だけでなく、遠く関西、中部からも出席いただき、のべ19名の皆さんで、盛大な会となりました。総会に先立ち、「六本木芸術ツアー」と銘打って、ヒルズ展望台、森美術館、新国立美術館（ゴッホ展）を巡った後、会場で3名の方々から、それぞれ大変含蓄あるスピーチを拝聴しました（林田甫氏：ピアノ四方山話、長門侃二氏：産業政策としての特許制度のあり方、藤原健嗣氏：旭化成と自然共生社会）。参加者有志



の写真展示も楽しみました。そして宴会で卒業以来の旧交を温めながら、秋の一日を終一杯、有意義に過ごすことが出来ました。

（江上記）



遠藤様

## ファンレター

78年卒の吉田でございます。 137号から連載中の「野次馬話」、毎号楽しみに拝しておりますとともに、そうだ！ そうだ！ と共感しております。 小生もとりわけ言葉には気になる方でございます。 とりわけ「地球にやさしい」につきましては、小生も地球環境に関する講義をするたびに「不遜だ」と繰り返してまいりました。

関連する拙文を書いたこともございます（添付ファイル）。「地球にやさしい」につきましては、他の方も言及されているのを何度か見たことがあります。

「改正反対」も国鉄時代の「合理化反対」と同様に小生も以前から思っておりました。 話は少しありますが、「ダイヤ改正」はどうして「改正」なんでしょうか？

別に正しくなるわけでもなく、諸般の事情から変更するだけなので「改定」くらいなら小生は許容できますが。

遠藤様にご意見をお伺いしたいことがいくつかございます。

一つ目は、「望外の喜び」という言葉を本の序文等で書かれる方がいらっしゃいますが、小生の理解では、結果として起こったことには「望外」と表現は可能であっても、起こる前に「望外」という言葉を発した時点で矛盾しないのかということです。

二つ目は、「彼（彼女）」という言葉の使い方です。 同僚といつても先輩のXXさんといつも言い争うのですが、XXさんは自分のお父さんのことや、目上の方に「彼」という言葉を使われます。 英語ではhe (she) はそうかもしれないが、少なくとも小生の日本的な語感では、自分の父を「親父」と呼べても「彼」とは絶対呼べないのです。 一方、XXさんに限らずほとんどの学校の人間は、学校の人間（上にも下にも）に対して、学生の前でなくとも「先生」をつけますが、小生は、同窓会はもちろんのこと大学でも学会でも師弟関係以外の「先生」呼びやめよう運動を徹底して展開中です。（以下のサイトご参照）

<http://www.jsme.or.jp/ted/chair87.html>

[http://www.jsme.or.jp/ted/thankyou\\_by\\_chair.html](http://www.jsme.or.jp/ted/thankyou_by_chair.html)

「先生」呼びに関するアンケートは以下です：

[http://www.jsme.or.jp/ted/enquete1\\_by\\_chair.html](http://www.jsme.or.jp/ted/enquete1_by_chair.html)

以上、お時間のあるときにご高見をいただければ幸いに存じます。

吉田英生

航空宇宙工学専攻

吉田様

即刻ご返答申し上げようとしていたのですが、あーだこーだと論拠を捏ねまわして書いているうちに別件が入ってしまい、ご返事が遅れ失礼致しております。 しばしご猶予戴きたく、宜しくお願ひ申し上げます。 以下は取敢えずのご返答です。

落ちこぼれ人間の駄文にファンレター？が届き、言葉を大事にしたいと私と同じように主張される方がおいでになったことは、望外の喜びです。また、添付の情報をお難うございました。「先生」呼びをやめよう運動を徹底中の方が「ございます」などをお使いにならぬようお願ひ申しあげます。

「彼」の妥当性や、「さん」「先生」だけでなく「様」「殿」の呼び方に関する直感的な答えは出来上がっておりまして、現時点の結論だけを申し上げておきますと（現時点と申し上げたのは論拠を捏ねまわしているうちに節を曲げるかも知れませんので）

- ①「彼」の使い方は、貴ご見解に全く同感です。しかし、ご指摘の現象は、「敬意」と「合理」の見境がつかぬ文部省時代からの木っ端役人や、それに迎合して来た学者や新聞等の思考欠落メディアが作ってきた大きな流れに属する言葉の乱れの事例のひとつに過ぎぬ気がし、正論はフェードアウトして行く運命にあると思います。
- ②「さん付け」活動は、活動の目的と強制力、地位・肩書に寄せる個々人の思い（敬意や自負心）、親密度等の要素が絡んで展開速度が決まり、いずれ、小難しい根拠は抜きにした「慣れ」が勝って定着して行くのではないでしょうか。やはり大きな流れに従うのだろうと思っております。
- ③言葉の乱れに抗して周囲の人だけにでもと働きかけておりますが、世代交代の大きな流れに抗うには余りにも無力で、斧を振り上げた蟻蟻がやがて冬を迎える姿を重ね觀ております。

「野次馬話」は色々なジャンルからなっていて、目の前に現れるものには、いわゆる芸能界絡み以外のことには何にでも関心が移り、支離滅裂なジャンル（故事や習慣、言葉、噺や艶話、科学や医学への独りよがりの解説、諸悪こき下ろし etc.）の文章があり、これを久保名誉教授殿の許に送り込んで掲載文の選択をお任せしご迷惑をおかけ致しております。私と致しましてはときには柔らかい話も選んで載せて戴ければと思うのですが、京機短信の威信を穢す訳にも行かぬとの思いがお有りだろうと推しております。

2010.12.01 遠藤照男

from 世話人 久保愛三

吉田さん、142号第6話「改正反対」が最新号で第11話となって繰り返されていましたね、とのご指摘、ありがとうございました。暇を盗んでやっつけ仕事の出版をしていて、老人ボケが重なるようになってきたようです。読者各位、どうも済みませんでした。

## 1. サイエンス型産業 における国際競争力低下要因を探る: 2010年11月

半導体産業の事例から

経済産業研究所 中馬 宏之

<http://www.rieti.go.jp/jp/publications/summary/10110010.html>

<http://www.rieti.go.jp/jp/publications/pdp/10p015.pdf>

本論では、複雑性が急増しているテクノロジーやマーケットのクロック・スピードになかなかついて行けなくなってきた日本勢の様子を、半導体産業に関連した2つの事例を取り上げて、可能な限りの（人の結びつきという意味での）臨場感を提示しながら一目瞭然化する。より具体的には、2000年前後を相変化時期とする半導体 (High-k/Metal Gate) プロセス技術と1990年前後を相変化時期とするシステム化実装技術という時代や性質の異なる2つの事例を取り上げる。前者については、ネットワーク分析に基づいて日本の研究開発システムの特徴を示すミクロビューとマクロビューを提示し、個別には優れた要素技術を保有する日本勢が世界の中で顕著に孤立化していく様子を示す。後者については、個別には優れた要素技術を保有していた日本勢が、インテル流“プラットフォーム”戦略によって生み出された半導体エコシステム内で、さらなる下位システムとして位置づけられ競争力を低下させていった様子を示す。その際、特に、組織内・組織間における情報の応答速度、転送速度、組織内・組織間にビルト・インされているコミュニケーション構造の特性について注目する。さらに、日本勢の場合、これらの速度を革命的に向上させることのできる筈のICT (Information and Communication Technology) をなぜなかなか組織の“中枢神経系”として活用できないのかについて、Zuboff (1984) の指摘したICTの二面性（あらゆる事柄を自動化する能力と一目瞭然化する能力）と日本文化を特徴付ける自律分散性（その結果としての属人性）に着目しながら私論を提示する。

## 2. 特集 成長戦略と日本経済 経済企画協会 電子版ESP 2010年秋号

<http://www.epa.or.jp/esp/update.html>

日本経済は、低成長とデフレが継続しています。その中で国家債務は累積しており、国家債務の対GDP比は、財政危機を迎えている欧州諸国よりも高いという危機的状況となっています。問題の解決のためには、経済成長と財政再建を両立する必要があり、政府は「強い経済」、「強い財政」、「強い社会保障」を掲げています。今号では経済の成長率を高める政府の成長戦略をご紹介するとともに、成長を実現するためにはどのような課題があるか考えてみました。

## 成長戦略と財政金融政策

ニッセイ基礎研所 経済調査部長 櫻浩一

<http://www.epa.or.jp/esp/10a/10a02.pdf>

日本経済は今すぐに財政再建に取りかかれる状況にはない。財政健全化の第一歩は基礎的財政収支の赤字の解消であるが、名目経済成長率を高めて税の自然增收が期待できるようにならなければ無理である。当面財政政策が経済成長のためにできることは、政府支出の水準を現在程度に保ちながら、負担と支出の構造をより経済成長に資するものに変えていくことだ。これは、非効率な分野の既得権益を奪って成長に貢献する分野への支出に回すことになる。政治主導を掲げる民主党政権には期待が大きい。財政政策には制約があるため、金融政策に対する期待が大きいが、財政政策と金融政策の境界はあいまいになっており、金融政策に過大な期待をすべきではないだろう。

#### 地域活性化と日本経済 三井住友アセットマネジメント 宅森昭吉

<http://www.epa.or.jp/esp/10a/10a02.pdf>

ご当地グルメによる地域おこしが全国で盛んだ。郷土料理は基本的に食材や料理法もその地域に根ざしたもので、B級グルメは食材や料理法に縛りはなく、特定の地域内で愛されてきた名物料理を指してきた。昨今、B級グルメが地域の郷土料理を取り込みつつある状況もある。B級グルメ人気の中、2006年から「B-1グランプリ」が開催されている。各地域の質の高い郷土料理やB級グルメなどは、重要な観光資源として、観光客を呼び込む重要なツールになる。食べ物以外にも多くの人の関心を集める参加型のスポーツや音楽祭などのイベントも地域活性化に役立つ。マンガ「神の雫」でも採り上げられたワインで有名なフランスのボルドー地方の「メドック・マラソン」などが参考になる。小さな動きの積み重ねも、地域活性化策としては重要だ。

#### 新内閣の経済政策体系と成長戦略 日本経済研究センタ 竹内淳一郎

<http://www.epa.or.jp/esp/10a/10a04.pdf>

『新成長戦略』が閣議決定された。その中で①20年度まで平均で名目3%、実質2%を上回る成長率、②11年度中に消費者物価の前年比をプラスにし、デフレの終結後、GDP デフレーターで1%程度の適度で安定的な上昇、③失業率を早期に3%台に低下、を目標とした。菅総理が、「強い経済」、「強い財政」、「強い社会保障」の3点を掲げたことを高く評価する。目標の実現に①イデオロギーから脱却しバランスのとれた政策、②データオリエンティッドな政策判断、③無コストの成長戦略としての規制緩和や特区の活用、④目先の景気不安への小出しの対応は見送り、中期的な成長戦略に集中投資、という4つの視点から具体的な政策立案を進めることを期待したい。

#### 「新成長戦略」における「パッケージ型インフラ海外展開」 内閣官房国家戦略室政策企画調査官 町田史隆 <http://www.epa.or.jp/esp/10a/10a05.pdf>

「パッケージ型インフラ海外展開」は、旺盛な海外インフラ需要に応えるため新幹線・都市交通、水、環境共生型都市開発などのインフラ分野における日本企業の取組を支援する枠組みである。インフラプロジェクトは相手国の経済基盤整備であるため、相手国政府の意向や政策の影響を受けるため、受注に向けて政府部門が果たすべき役割は大きい。我が国は、公害問題や二度にわたる石油危機を技術革新の契機としてきた世界最高レベルの環境・省エネ技術や安全・安心技術を有しており、雇用創出・成長を促し、環境問題や都市化等の諸問題において世界にソリューションを提供する「日本ブランド」を浸透させ、世界とwin-winの関係を深化させるツールとして期待は高い。

### 成長戦略産業と日本経済

内閣官房国家戦略室 永原伯武

<http://www.epa.or.jp/esp/10a/10a06.pdf>

内需と関係が深いグリーン・イノベーション、ライフ・イノベーション、観光分野を重視。グリーン・イノベーションについては、制度設計、規制改革、税制のグリーン化等による総合的な政策パッケージにより、トップレベルの環境技術・製品・サービスを普及させることを目指す。最先端医療の開発・実用化を進め、ものづくり技術を活かした医療機器、診断技術の開発・改良を進める。訪日外国人数は増加を続けており長期的に3,000万人とすることを目指し、アジア、特に中国のインパクトが人数、消費額の両面でさらに大きくなることが予想される。成長戦略を絵に描いた餅に終わらせないよう、政府には強い決意を持って施策を実行していくことが求められる。

### 3. 「新成長戦略への提言II」を発表

野村総合研究所

2010年10月25日

～政府の改革と社会基盤の改革を目指して～

[http://www.nri.co.jp/news/2010/101025\\_1.html](http://www.nri.co.jp/news/2010/101025_1.html)

2008年の世界的金融危機から2年を経過し、日本経済は依然として停滞の中にあります。この間、先進国経済の停滞や新興国の成長など、世界経済の構造は大きく変わっています。この変化は、単に世界の需要が一時的に落ち込んだだけではなく、1970年代の石油危機のように、世界の人々の価値観や産業構造が大きく変わりつつあることによるものです。こうした世界的な変化に加えて、日本は、急速に進む高齢化や人口減少社会への対応など、固有の課題にも直面し、解決を迫られています。今後、さらにグローバル化する経済社会のもとで、世界における日本の役割をどのように位置付けるのか、産業の付加価値の源泉をどこに求めるのか、そして、豊かな日本をいかに維持し、より良い社会へとどう改善していくのかが、今問われています。

こうした環境下で、NRIでは、本年5月に「新成長戦略への提言」と題して、主に経済産業面の成長戦略について、分析と提言を行いました。今回の「新成長戦略

への提言II」は、上記の新成長戦略を一層推進するために、政府の改革や社会基盤の改革の方向性について、提言を取りまとめたものです。

総論では、以下の2点をまとめています。

(1)構造改革への基本的視点と提言のフレームワーク

(2)より効率的な政治主導実現に向けた政府の組織改革

また、各論として、以下の5つの提言を行っています。

(1)社会保障制度の持続性確保のための雇用政策強化

(2)社会资本整備への新しい制度設計と民間資金・ノウハウの活用

(3)延命でなく活力を支援する金融へ

(4)社会保障制度の拡充のための番号制度導入と個人情報保護機関の設立

(5)自治体主導の電子化が拓く行政サービスの効率化

NRIでは今後、今回の提言内容を政府関係者や産業界の関係者に理解していただく活動を、積極的に展開するとともに、継続的に、日本の成長戦略や構造改革に資する調査研究と提言を行ってまいります。

なお、提言書は近日中にNRIホームページで公開の予定です。

#### 4. 成長戦略としての「人材開国」政策 日本総合研究所 0年10月25日

～本社・大学・都市の内外人材交流による成長シナリオ～

<http://www.jri.co.jp/page.jsp?id=18761>

(1)国内労働力が減少に向かい、海外事業の重要度が飛躍的に高まる。今後の日本経済・日本企業の持続的成長にとって、「人材開国」により優秀な外国人の力を取り込むことは不可欠の取り組み課題であり、成長戦略の最重要テーマの一つに位置づけられる。本リポートでは、わが国の人材グローバル化が遅れている要因を分析した上で、成長戦略としての「人材開国」政策のあり方を提言する。

(2)ミクロ(企業)の面からみれば、2008年の世界経済危機を経て、「まず自国があって海外事業をどう展開するか」という発想に基づいたものから、「グローバル市場から発想し、そのなかで自国をどう位置づけるか」という発想への転換が求められている。しかし、日本企業にとっての海外現地法人は、「出先機関」として位置づけられている面がなお色濃く残存。これは日本国内の人材グローバル化の遅れに原因があり、国内本社がグローバルに通用する業務手順やルールの構築に取り組み、外国人に本社経営陣登用への途を開くことが問題解決に必要。日本企業が「内なる国際化」に取り組むことで、国内優先のドメスティック企業から、内外一体で捉えるグローバル企業として自己認識を変えることが求められている。

(3)マクロ面に視点を移せば、現行のわが国における外国人受入れの方針は、専

門的・技術的労働者は可能な限り受け入れる一方、それ以外のいわゆる単純労働者については慎重に対処するというもの。しかし、現実には専門的・技術的労働者の受入れは余り進まず、むしろ単純労働者が大幅に増加。高度外国人の受入れの遅れは、入国管理制度上の問題よりも、①国内本社グローバル化の遅れ、②大学国際化の遅れ、③外国人を受け入れる都市環境整備の遅れ、といった点に起因。

(4) 今後の環境変化の潮流からすれば、日本経済・日本企業のマクロ・ミクロ両面で人材グローバル化は不可避の課題。もっとも、日本人にとって国際化（異文化との接触）の経験量の絶対的な不足という現実を踏まえれば、表層的・急進的な取り組みはかえって反動を生むリスクがあり、持続的かつ地に足のついた「人材開国」を進めることが肝要。まずは従業員の海外派遣の積極化、海外留学経験のある若者の増員等により、グローバル化を「体験」する日本人を増やすことから始める必要があり、同時に「国内本社人材のグローバル化」「大学の国際化」「外国人に魅力ある都市づくり」により、本社・大学・都市の3つの場における内外人材交流を推進することが、人材開国政策の要諦。

(5) 近年、企業活動のグローバル化が進展するに伴い、世界各地に分散した事業を統合する高度な本社機能が不可欠になり、それを支えることのできる金融サービスやプロフェッショナルな事業所サービスが集積した「グローバルシティ」が成長。この背景には、国民経済という経済単位が衰退し、地域単位でのグローバル化の度合いが当該地域住民の生活水準を決めるようになるという、「グローバルな地域間競争」の構図の形成。 こうした新たな構図のもと、今後、グローバルシティをいくつ作れるかが国の成長力を決める重要なファクターに。その意味で、本社・大学・都市における内外人材交流の推進は、グローバルシティ建設につながるものである点で、成長戦略の中核に位置づけられるべき施策。 全文はこちら (PDF : 522KB)

[http://www.jri.co.jp/file/pdf/company/release/2010/101025/jri\\_101025.pdf](http://www.jri.co.jp/file/pdf/company/release/2010/101025/jri_101025.pdf)

## 5. 平成 22 年度補正予算案 生命経済研 鈴木 将之 2010 年 11 月 2 日

### ～成長戦略への橋渡しと足元の負担軽減～

[http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/rashinban/pdf/et10\\_199.pdf](http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/rashinban/pdf/et10_199.pdf)

- 平成 22 年度補正予算案が国会に提出された。この補正予算案の特徴は、税収の上ぶれや剰余金活用によって 11 年ぶりに国債発行がないこと、新成長戦略への橋渡し役を担うことなどがあげられる。一方、平成 22 年度の予算規模は、平成 21 年度について過去 2 番目の大規模なものとなっている。
- 補正予算案では、雇用下支えや子育て支援、医療・介護・福祉など生活支援策に多くの予算が割かれている。また、地方経済の状況を勘案して、地域活性化として地方交付税の増額や社会資本整備などが盛り込まれている。内閣府の試

算によると、この対策によって実質GDPを0.6%程度押し上げ、雇用下支え効果は50万人程度が見込まれている。

- この補正予算案は、新成長戦略に向けた3段構えの経済対策のステップ2にあたり、足元の経済の下ぶれを軽減し、来年度以降の成長戦略への橋渡し役を担っている。そのため、補正予算を早期に成立させ、より効果的な成長戦略の実現について議論を深めることが重要である。
- 推進・加速がうたわれている新成長戦略は、従来の政策の枠を出ないものが多く、規模も小さい。国内に雇用機会を確保するためにも、自由貿易協定の締結や、円高への対応や法人税率や法制度などビジネスコストの引き下げなども必要となる。さらに、日本経済は社会保障や財政問題など長期的な問題に直面しているため、同時に税制度体系と社会保障制度の一体的な再検討を行い、持続可能な日本の成長経路を示すことが期待される。



今年も押し詰まつきました。 本号が今年の最終発行刊です。

自然、経済、政治とも、日本のみならず世界中が変になって、坂道を転がり落ちて行くような一年でした。

来年は是非ともより良い年になってくれる事を祈らずにはおれません。  
良いお年をお迎え下さい。

世話人 久保愛三